

令和元年 11 月 11 日
第 3 回 湯沢町総合戦略推進会議 要旨

1. 座長挨拶（鷺見座長）

2. 説明

(1) 湯沢町総合戦略案について 資料 1・資料 2

【修正点】

目標年度：5年計画であるため、それに準じたものに修正

【基本目標 5 について（資料 1：4 ページ目）

（質疑）

■林副座長

雪国観光圏から、実績報告は事務局に届いているか？

■鷺見座長

ここに記載されている数値の根拠を示してほしいということだと思う。

■事務局 富沢課長

平成 30 年度の数値は、観光部局より報告があった。目標としている数値は、観光部局が推計を行った結果を反映している。詳細については産業観光部長に確認の上、報告する。

■鷺見座長

戦略案に記載されている数値と、実績値の整合性が取れているかということ
は大切だと思うので、確認をお願いしたい。

■山口委員

目標期間が修正されたのは、事業ごとに好ましい期間があるためか？

■鷺見座長

総合戦略が5年間の目標なので、チェックする中間年度も含め統一したほうが良いと判断して修正した。

【基本目標6について（資料1：4ページ目）
（質疑）

■林副座長

防災訓練に関しては、毎年必ず行うという記載をしてもいいのではないかな？豪雨災害は、どの地域でも起こり、絶対安全ということはないということは先の災害で思い知ったと思う。

■鷺見座長

それは総合計画内で記載すればいいのではないかな？今回は自主防災組織の設立を促進するという旨の記載があるが、現在形成している組織はいくつあるのかな？

■事務局 富沢課長

現在町内会やリゾートマンションの管理組合で、51の自主防災組織が形成されている。

■林副座長

自主防災組織の促進も然り、防災備品の購入に補助が出ることをもっと周知していったほうが良いと思う。

■事務局 富沢課長

担当課で毎年周知はしているが、足りない部分も当然あると思う。継続的に整備してきた防災ラジオの配布も併せて周知を行っていけるようにしていけると良いと考えている。

■鷺見座長

定住自立圏のKPIについて質問だが、目標としている相互利用件数の5件という数値は、どのような連携事業をイメージして5件としているのかな？

■事務局 富沢課長

現在は図書館の相互利用で1件となっている。広域連携をするにふさわしい事業を現段階で口述することはできないが、何を相互利用できたら利便性が向上するか、事務局で検討を重ねていきたいと思っている。

■林副座長

医療分野の連携で、診察券の共通化などはどうか？今は電子カルテで患者のデータを共有することは容易だと思うので、域内どの病院でも情報共有して連携していけると便利だと思う。

■事務局 富沢課長

「うおぬま米（まい）ネット」というそれに似たシステムがある

■鷺見座長

何かの目的を持った上で、設計していかないと有意義な連携事業にならないと思うので、事務局の検討は重要なものになる。振興局の方で、連携事業を行っているということはあるか？

■鈴木委員

特に該当する事業はない。

■鷺見座長

「うおぬま米ネット」は委員の皆さまは利用しているのか？

■劔持委員

病院に行くと利用するように勧められるが、私は利用していない。

■綿貫委員

私は利用している。便利だと思っている。

【新総合戦略案全体について】

(質疑)

■鷺見座長

一通り、全ての基本目標について質疑が終わったが全体を振り返り、何か意見はあるか？

■林副座長

給食費の無償化について、記載がないが検討はもうしないということか？
(資料1：3ページ目)

■事務局 富沢課長

検討をしないというわけではないが、実施が確定したわけではないため明記はしなかった。

■鷺見座長

給食費の無償化を制度化する上でかかる費用が約3,000万円という試算だったが、目的としては子育て環境を整備した結果、出生率が向上することが大切だと思うので、どこに投資するかまだ検討の余地があり、事務局と協議し記載をしなかった。

■腰越委員

給食費を無償化することで町の財政運営は大丈夫なのか？

■林副座長

この会議は財政運営の協議を行う場ではなく、どうすれば子育て環境が良くなり、出生率が上がるかを考える場だと思う。

■樋口委員

保育料が無料化になったことで、家計的には助かる部分があることは間違いないが、感覚として給食費は普通に払っていける負担だと感じている。どちらかと言えば、小学校に上がった際の習い事など支出が増えるので、そういったところにお金を回していきたいと保護者は考えると思うので、給食費を無償化にしてその浮いた分を習い事に回せるという論理だといいいのではないか？

■林副座長

思い切ったインパクトのある制度は必要だと思う。子育て世代を移住させることはそれくらいの思い切りのいい支援がないと難しい。

■劔持委員

息子夫婦に湯沢にどうしたらUターンしてくるか？と聞いたら、東京と同等の給与が保証されていれば帰ってきたいという話だった。

また、どうしたら湯沢町に若者が帰ってくるかという話を聞いたら、湯沢町が行っている新幹線通勤を認めているような先進的な働き方を行っている企業の誘致や、そのような働き方の受け入れ体制ができていると今の若者たちはUターンしやすいのではないかという話だった。

■林副座長

本庄早稲田駅は、新幹線通勤をする上で最高の場所だと思う。駐車場が駅前であく借りられて、住宅ローンもアパート家賃を払うような金額で30年ローンが組めるほど土地も安い。埼玉県北部で連携して移住促進を行っていることも知った。湯沢町にとって非常に手ごわいライバルだと思う。

■鷺見座長

湯沢町は支援制度が他の自治体と比べ充実しているので、これだけ安くなるという試算を提示すると面白いと思うし、データとして持っているか移住を検討している方の背中を押すものにもなりうると思う。

■林副座長

話は戻るが、給食費の「無料化」という記載をお願いしたい。事業化の可否は行政の判断になるが、提言はさせていただく。

■鷺見座長

付帯意見として、掲載するということではいかがか？

■鷺見座長

出生率の向上について、今お話しいただいた子育て環境の整備を行うことにより、現在婚姻関係にある夫婦の出生数を増やすことと、未婚の男女の割合、未婚率をいかに下げられるか、この2点を改善させていくしかないかと私個人は考えている。湯沢町は、他自治体と比べると、未婚率が高い水準にある。この

問題の対策を考えることも重要だと考える。

■林副座長

最近テレビで見たが、不妊の夫婦が多く、体外受精が増えているらしい。一回の費用で100万円ほどかかるようだが、結婚後の不妊治療の補助も併せて考えていく必要があるのではないか。

■池田委員

結婚しているが不妊でなかなか子どもを授けられないという知人がいる。

■鷺見座長

結婚しない理由について、「適当な相手に出会えない」という理由が全国共通の理由として挙げられるため、出会いの場の提供をなるべく早い段階で行っていく必要があると考えている。また、学生たちなど最近の若者を見てみると、何事もなかなか自分から一歩を踏み出さないという若者が多いと感じている。相当手厚くおせっかいをやくらいのことをしないと動きださない傾向があると思う。

■劔持委員

シングルズパーティでも、会話のタイミングやきっかけを相当手厚く作ってあげないと会話をしようとしにくい。

■鷺見座長

交流会を行う場合、規模の小さい自治体だと交流会の参加者の面々が変わらないということも懸念されるので、各会ごとにターゲットを変えるなどの対策も検討していかないといけない。

■劔持委員

湯沢町でも外国人労働者が増えてきたと思うが、そういった方々に対してビザが切れたらもう終わりではなく、定住につながるように遊びや交流の場を設けると定住にもつながるし、労働者の確保にもつながると思う。

■林副座長

そういった方々を含めて、恥ずかしいという思いを感じないような交流会や、個別の結婚の相談所を開設するなど、今の事業を見直す必要があると考える。

■小林委員

看護師や警察官は出会いの場がないという話を聞いている。私の会社では職場結婚のパターンもあり、出会いの場が職場しかないという人も一定数いると思う。

■鷺見座長

町が行う事業というより、民間ベースで行っていくという方向性も考える必要があると思う。

■山口委員

トッキーの社員が、駅員と合コンをさせろという意見が私のところにも届く。

■林副座長

住宅取得支援補助金について、若者が固定資産税の還付補助という制度設計はわかりづらいのではないかと？

(資料1：2ページ目)

■小林委員

湯沢町は家の周りの除雪が必要で、建設単価も高いため、住宅を構えるハードルが高いと思う。ならば雪の降らない地域に移住するという人が多いのではないか。

■林副座長

雪国は暖房費など生活コストが、その他の地域よりかかるのでもっと生活に寄り添った補助を考えたほうがいいのでは？

■綿貫委員

マンション購入に対してならばいい補助だと思うので、もっとマンション購入に特化した制度設計を行ったほうがいいのではないかと？

■池田委員

確かにマンション購入に対する固定資産税の補助の方がお得感がある。

■鷺見座長

お試し居住制度を含め、移住促進事業は民間企業と連携して行っていく方向だと思うが、委員の皆さまのご意見を踏まえ、事務局には制度設計を見直すことも検討してほしい。

■林副座長

新幹線通勤補助に関して、二次交通の支援ができればより有意義な制度になると思う。それは、新幹線通勤者だけでなく、高校生の通学などにも利用できるような制度設計で考えてほしい。

(資料1：2ページ目)

■山口委員

高崎以遠に1,000人以上通勤している人がいるというデータがある。市場を探る余地はあると思う。

■林副座長

最終的には、ライドシェアのように子育てや福祉にも役立つ制度になればいいと思っている。

■綿貫委員

基本目標5内の「観光地域づくり法人」の位置づけについて説明してほしい。

(資料1：4ページ目)

■事務局 富沢課長

湯沢町観光協会があり、各地区に観光協会がある現状の中で、観光組織を整理してDMOを組織するといった事業が今年からスタートした。その流れで戦略案に記載した。

■綿貫委員

KPIは1組織となるが、組織して終わりになってしまうのではないかと。その他に起業した他の団体への補助などは考えていないか？

■事務局 富沢課長

戦略案に記載していることは「DMOの設立を目指す」という意味合いで記

載している。起業などのその他の支援に関しては、別の事業で行っていく。

■綿貫委員

外国人観光客受入れ体制の整備支援のK P Iについて、疑問がある。

(資料1：4ページ目)

■鷺見座長

多言語に対応したからといって観光客が増えるのではなく、その先もことを考えた上でのK P Iを設定しているのだと思う。観光協会の方で、看板等の多言語化の計画があると思うので、事務局はそれと照合して、書き方を検討してほしい。

【給付型奨学金について（資料2）】

■事務局 笛田主任

出雲崎町の奨学金制度を調べてみると返還支援の制度で、給付型の奨学金ではなかったが、行政だけでなく民間が出している奨学金も返還支援の対象になるとのことだった。

3. その他

■林副座長

基本目標1の「目標達成のための取組」の事業にチャレンジショップを追加するように提言する。

■事務局 富沢課長

キッズルーム「雪ん子」オープニングセレモニーのご案内

今後のスケジュール

第4回：令和元年11月26日（火）13：30

湯沢町役場3F議会第2会議室

第5回：12月6日（金）15：30

湯沢町役場3F議会第2会議室